

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***由来不明の乾板 10枚 (1枚にはBradfieldと書いてある) 収蔵**

国立天文台天文情報センター・アーカイブ室では国立天文台の旧図書館(昭和5年(1930年)建設)の1階に保管されている古い天体写真乾板等の整理を進めている。この作業の一環の中から昭和20年2月の本館消失で失われたと思われていた100年以上前に撮影された写真乾板が発見され、日本人最初の小惑星発見の写真乾板が出てくるという大きな発見もあった。天体写真乾板の整理は佐々木君、大島君が進めており、筆者はこの物置状態の棚から確たる資料とも思えない雑物の整理を引き受けている。今回は**10枚の乾板(1枚には彗星Bradfieldと書かれている)**が入った印画紙の箱(写真1)を収蔵した。



写真1 詳細不明の10枚の乾板が入った箱

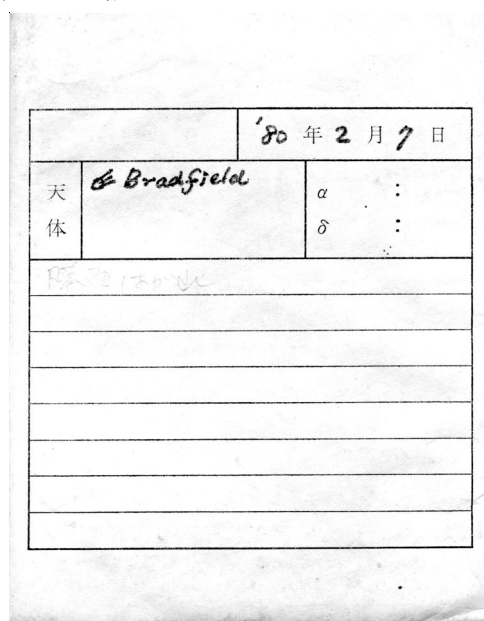


写真2 乾板の袋

この箱の中には、和紙のような乾板袋(写真2)に入った10枚の乾板があった。1枚には写真2のように彗星Bradfieldという天体名と1980年2月7日の日付が入っている。他に「3580」、「L3581」と袋の番号のところに入ったものがある。それらは乾板本体にもその番号が書かれていた。乾板の袋の番号のところには記されていないもので乾板本体に番号があったものに、「3582」、「3575」、「3576」の3枚があった。これらの内「3581」、「3582」の2枚は写真濃度の特性曲線を求める露光の乾板である。そこでこれらは彗星Bradfieldを撮影した一連の乾板かと思ったが、彗星Bradfieldと書かれた袋に入った乾板には彗星の像は認められず、「3575」と書かれた缶には彗星と思われる像が写っている。また、3枚は写真濃度の特性曲線を求めるための露光をした乾板である。とにかく10枚すべての乾板をスキャナーで取り込んだので紹介するが、彗星Bradfieldと書かれた乾板と

特性曲線を求めるための露光乾板の 1 枚は膜面がひどく剥がれている。写真 3~12 がその像である。



写真 3 乾板その 1



写真 4 乾板その 2(3576)

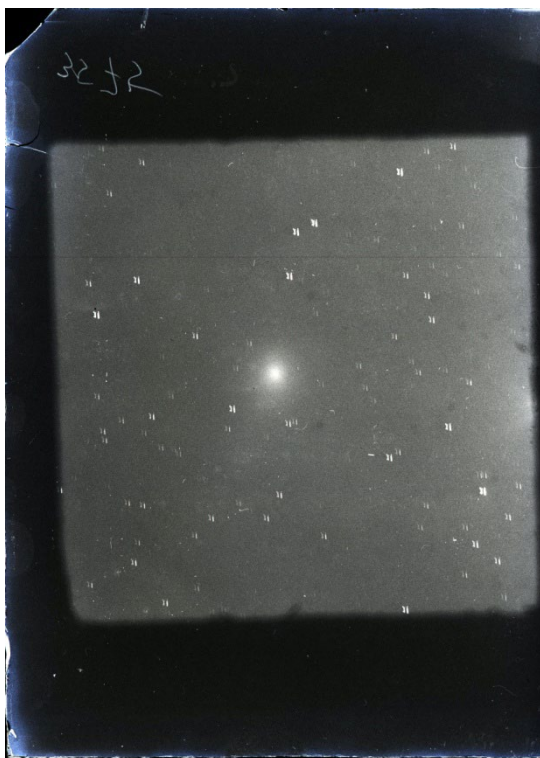


写真 5 乾板その 3(3575)



写真 6 乾板その 4

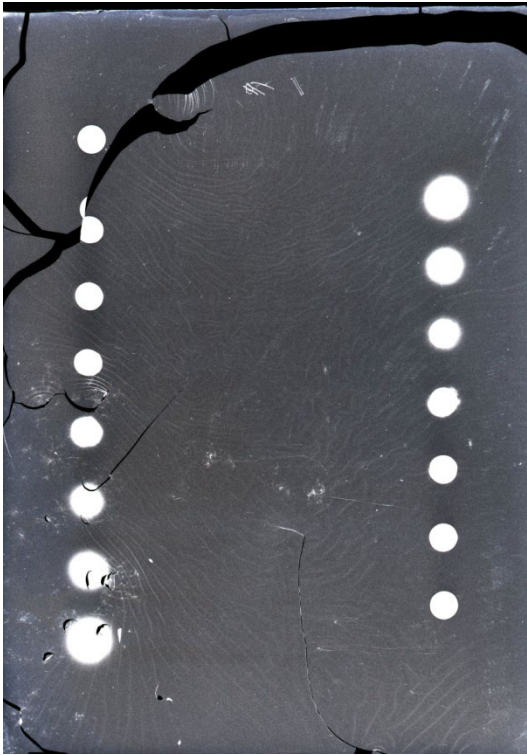


写真7 乾板その5

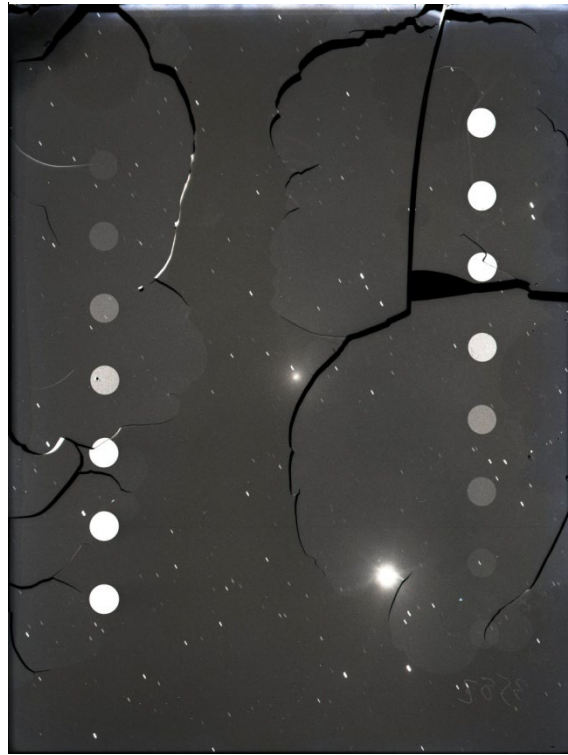


写真8 乾板その6(3582)



写真9 乾板その7(3580)



写真10 乾板その8

これらの乾板のサイズは、82x17mmである。手札よりは小さく、特殊な大きさと思われる。今までのデータからは、望遠鏡も特定できない。



写真 11 乾板その 9(3581)

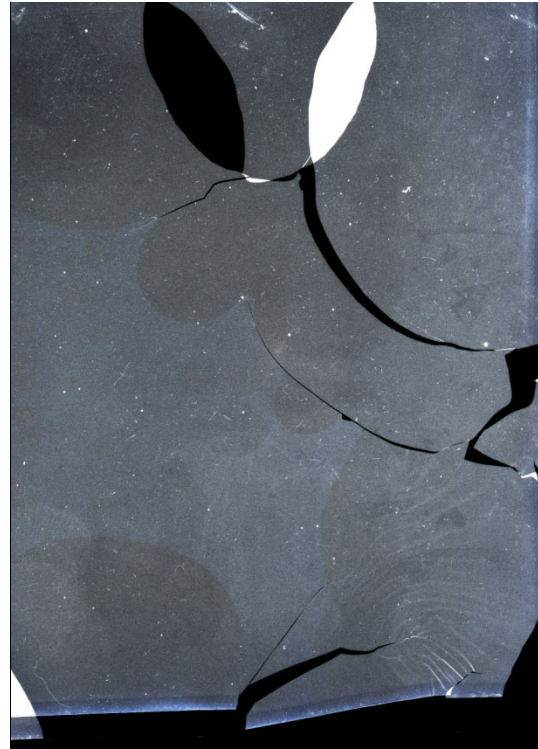


写真 12 乾板その 10

写真 12 の乾板が袋に彗星 Bradfield と書かれたものだが、膜面はほとんどはがれているし、星像らしきものは認められない。しかし、乾板 10 枚の内 5 枚に番号が入っており、近い数字であることから一連の乾板ではあろう。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp